

上島町立学校統合準備委員会 第1回総務部会 協議記録

- 1 開催日時 令和8年6月29日(月) 19:00~21:40
- 2 開催場所 生名地域交流センター大ホール(立石港務所2階)
- 3 参加者 亀山 秀磨、山本祐美子、高見 恵美、白石 建彦、
村上 教美、鍋島 理恵、白石 孝樹、山上 耕司、
田中 一也、宮本 直樹、榊田 卓也、田坂 敏、
山本 勝幸、井出 和宏、曾我部芳昭、原山 美咲
- 4 協議内容記録
 - (1) 部会長の選出について
 - 弓削中学校長 白石 建彦 を選出
 - (2) 校名について
 - 上島町広報誌7月号に折込み配布する。
 - 募集期間は7月末まで。
 - 採用校名応募者の中から抽選で1名に記念品と感謝状を贈呈予定。
 - (3) 校章について
 - 各小中学校の校章・校旗・校訓・校歌について現状確認、意見交換。
 - ・ 現校章は、地域の特徴を入れている。
 - ・ 校名を入れるのであれば、校名決定後に校章を決定する。
 - ・ 子どもたちや地域の方の願いを反映させるため、対話をする必要がある。その思いを基に、デザインをしてくれる方(デザイナー、高校生、商船、地域の専門的な知識・技術を有する人など)に依頼してはどうか。
 - ・ 現在の校章のようなものではなく、ロゴ的なデザインもあり得る。
 - ・ 校名の決定後、校章を検討した方がスムーズではないか。
 - ・ こんな学校にしたいという子どもたちの思いをどこかには取り入れてほしい。それによって子どもたちが「通いたいな」「新しい学校を一緒に作っていく」という気持ちが入ることが大切なのではないか。
 - 校章は、子どもたちの思い、願いを反映するようにする。
 - ロゴ、デザインなど、専門家への依頼等で予算が必要なものは、議会を通すため、時間が掛かる。校名は7月末に募集が終わり、早ければ、12月議会にかけすることもできる。各校で動けるのは2学期からになる。
 - 他校では、子どもたちのデザインの中から数点選び、美術科教員が整えたものから決定した事例もある。また、AIを活用することで子どもたちの思いを反映させたデザインを作成することも可能である。
 - 上島町には美術系の高校等がなく、美術科教員もほとんどいないため、子どもたちが作成したものを大人(専門家)が手直しすることはできる。
 - デザインする側からすると、校名が決まっていないとイメージしづらい。
 - 事前に子どもたちの思いを集めておき、それを基にデザインできるようにして公募したり、専門家へ依頼したりすれば、子どもたちの思いから大きくずれたりはしないのではないかと。その後で校名が決まれば、その校名を入れるようにすれば良いのではないかと。

- 小学校低学年の思いを汲むのは難しい。何を聞き取りたいのか、聞き方の工夫と、意見のまとめ方が大切ではないか。それをまとめてデザイン化する専門知識が必要と感じる。デザインする人も一緒に入って話をしないと、本当の思いは汲み取りにくいと思う。
- 校名の公募について、全国募集で選ばれた校章は、子どもたちの愛着が湧かない。子どもたちあるいは、町内から選ばれた方が、子どもたちにとって思い入れが出てくるのではないか。
- 各校から子どもたちの思いを何点か（５点ぐらい）持ち寄り、代表者が話し合う。その結果を基にして校章を公募してはどうか。
- 新しい学校名と子どもたちの思いを合わせたものを基に、上島町内と子どもたちに公募または、専門の方に作ってもらうとよい。
- 子どもたちが応募することによって、自分たちも参加しているという気持ちを持たせたい。
- 子どもたちの案がそのまま使用できたり、子どもたちの原案からＡＩや業者により整えたりすることも可能である。
- 子どもたちの思いはずっとつながっていくものであるから、作成する対象校は現在通っている校種とする。
- 子どもたちがどのような学校にしていきたいかという思いを意見として集め、各校で５点程度に絞る。小学校３校、中学校２校で代表者が話し合い、子どもたちの思いをしっかりと汲み取った案に絞る。その上で、新しい学校名と子どもたちの思いを子どもたちに伝えて、新しい校章を小中学校で公募する。その中からこの総務部会で選び、全体会で了承を得た後、業者等に仕上げをしてもらう。その際、子どもたちのイメージは崩さないようにしてもらう。
- 子どもたちの思いだけでなく、上島町の特徴、良さ、イメージカラー等含め、総合的に話すと良い。
- 子どもたちにどのような問い掛けをするか、次回部会までに案を出す。
- 統合準備委員会では、この部会での方向性（子どもたちの意見を中心にしていくということ）について経緯を説明し承認を得てから進めていく。

(4) 校訓について

- 校訓は、各学校で共通するものもあり、違っている点については、子どもたちの思いを取り入れる方向で、部会で話し合っていけば良いと思う。
- 各校の校訓で共通する点もあるが、それらには子どもたちの思いが入っていない。子どもたちの思いを入れながら、今の伝統に引き継いだものをすり合わせていけば、どこかの学校に偏るものではなくなる。
- 校訓は、大人「教員」が決めるべき。校訓は変わることのない、その学校のこれから何十年という中で礎となるものであるため、大人・教員・専門家が考えて設定するのが良い。
- 先生教育観・教育論があって、どういう子どもたちを育てたいかということを、子どもたちの意見を聞くのではなく、教員が普段の生活を見た上で判断し、各校それぞれ教員で話し合いをして、部会に掛ける方向とする。

(5) その他

- 次回は、校訓案などをもって会を開く必要があるため、各学校で話し合
って8月末か9月の開催で、18：00開始で調整する。
- 次回の部会は、校章について、子どもたちの思いを集約する話合いの柱
の検討と各学校で話し合った校訓の候補案のすり合わせ、校歌の決め方ま
で協議したい。
- 保護者等から、部会で学童（児童クラブ）についての検討希望がある。
担当課は教育委員会ではないため、学校教育課長より担当課に話を伝える
ことになった。